

中ハシクシゲ・谷 穹

泥仲間

Opening Reception: 5月7日(日) 16時30分-18時

鑑賞会: 5月21日(日) 14時~ 両作家を交えた作品の鑑賞会



ギャラリーあしやシューレでは、5月7日より6月4日まで、中ハシクシゲ・谷穹の2作家による作品展「泥仲間」を開催致します。

松の木、小錦、昭和天皇など日本の情景をテーマにした金属彫刻や、実物大のゼロ戦機を共同制作する「ゼロ・プロジェクト」など、コンセプチュアルな作品で世界的に知られる中ハシクシゲ。2016年6月「もっと面白くなるかもしれない」(SUNABA GALLERY)で発表したのは、両手に収まるほどの土の塊による作品でした。押し引き伸ばし、ちぎってはねじりして造形した粘土彫刻。2017年3月の鳥取県立博物館「ミュージアムとの創造的対話 01 Monument/Document 誰が記憶を所有するのか」展では、この即興的な「粘土を活ける」試みを継続して発表しています。鳥取市内で行われた泥彫刻のワークショップでは、対話と交流がもたらす過程を作品の一部に組み込みながら、新しい彫刻の在り方を示してきました。

谷穹は、国内外で「ゼロ・プロジェクト」を展開しはじめた中ハシクシゲに、アシスタントとして同行しました。その後、家業の清右衛門陶房に戻り、信楽茶碗に正面から向き合います。「わび」「さび」を形容詞とする信楽の中で、中世・室町時代に作られた「古信楽」の探求をもとに、独自の作品を制作しています。

2015年には、京都工芸繊維大学美術工芸資料館「これからの、未来の途中」に出展、それを機に京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで個展を開催するなど、現代美術の舞台でも活躍の場を広げています。

中ハシクシゲが向き合う塑像の原点と、谷穹が探求する日本の幽玄美。

本展では、二人が共通して扱う「土」を介しながら、日本の芸術の在り方に向き合い、世代や立場を超えてともに考える機会となる場を探ります。

画像 左: 中ハシクシゲ「何、見テンド?」 photo:Yuichi Kayano

右: 谷穹「信楽黒茶碗」 photo:Tani-Q

谷君は、私が成安造形大学に勤めていた時の学生で、口数は少ないのですが、何も言わなくても仕事の段取りを先回りして準備できました。本格的なゼロプロジェクトだったオーストラリアのダーウィンでは、そんな人が必要だったので、長期間助手として滞在してもらい、おおいに助かったものです。

その後、谷君はいわゆる現代美術から離れて陶芸の世界に入ったのですが、嬉しくなった私は、何度か励ました記憶があります。私は世間から現代美術の一人と見なされていますが、現代美術の世界は、どっしりとして長期間思索に耐えられるものが少なく、私としては居心地がよくありません。しかしその、“どっしり問題”は当然、私自身にも突きつけられているのですから、悩みは大きいです。

私は長い間、塑造の修行をしていたので、モデリングで考える造形思考の傾向があり、ゆくゆくは塑造で作品を作りたいと願っていましたが、粘土で造る彫刻の歴史は厚みがあって、ちょっとや、そつとでは、人に見せられるものは出来ません。だからこそ、どっしりとしてくるのですが、その伝統はダイレクトに西洋文化と繋がっています。ところが日本では、“どっしりイメージ”の量感は、とりわけ育ちにくい感覚のようです。粘着的でサラッとしていないのが原因かもしれません。だからこそ、なのですが、東洋から彫刻領域に貢献できるものはなんだろうかと、絶えず考えるようになりました。

一昨年、粘土を使った仕事ようやく糸口が見えてきたとき、谷君が私のスタジオにやってきました。伝統について二人で色々と話し合ったことを思い出します。谷君の古信楽に通じる感性は、清々しく、さっぱりとしていて、一見して他の陶芸作家との違いが鮮明です。ここに真の伝統の息吹を感じています。

伝統というところで苦勞を共にしていますが、そんな我々に企画が飛び込んできました。同じ素材で出来てはいますが二人の作品が並んだら、一体どんな風に見えるのか、そのイメージができずとてもワクワクしています。

「泥仲間」によせて

谷 穹

私が「古信楽」を追い初めた頃、それは遥かに遠いところにありました
しかし、その時は距離感すらありませんでした
しばらく走ればたどり着くだろうなどと考えていましたが
技術が身に付くにつれて、距離の遠さを思い知らされました
そこで、あまい考えと無駄な常識を根本的に見直す必要にせまられました
派手な反応に目がくらまないよう慎重に、
しかし失敗がハッキリとするように大胆に、窺と向き合っていました
2014年4月の窯での技術の再発見により、今の私は始めました
そこからさらに積み重ねるうちに、古信楽が単なる備蓄用の入れ物ではなく、
室町の幽玄思想が具現化したものだ確信したのです

私にはもうひとつの始まりがあります
芸術大学1年生の時の、指の感覚だけで自分の鼻をつくる塑造です
まず指先で鼻の先端から顔に向けて何度もなぞり
感覚を失わないうちに中空の粘土をたどり違和感がなくなるまでそれを繰り返します
同じ方向を向いて塑造の顔は出来上がります
それが似ているかどうかはつくっている本人には判りません
ただ範囲が広がるにつれて、指先の感覚は鼻先を中心にした奥行きだけをとらえます
そのとき、今の私に至る種が植わったように感じます

2015年のグループ展にて
その大学の恩師は会場を見渡し、私の作品だけを見分け
「その周りだけ別のさわやかな風が吹いている」と評してくださいました
それが中ハシクシゲ先生です

その後、先生から
「全く新しい作品が出来たが、台座を陶器で作れないか？
そして、まだどこにも発表していないが観に来ないか？」
との連絡をいただき、アトリエにうかがいました
この数年やきものの事しか考えていない私が、彫刻を観て何か言葉を発することが出来るのだろうか？
と不安を抱えながら作品と対面しました
水滴がしたたる瑞々しい粘土は、あきらかに周囲と別の空気を纏っていました
作品を真ん中にし対話するうちに、その作品はじわじわ膨らみました
目の前にある面白さを目の当たりにしながら、
心の隅で茶の湯に通じる何かを感じました

日本の美意識は細分化されてきました
「あわれ」「幽玄」「雅」「侘」「寂」「ひえ」
など、「工芸」に束縛されるまでは、
その時の「今」の感覚にあわせて言葉をつくり、あてがわれていました
日本の色が数えきれないほどあるのと同様です

「粹」が登場するまで、日本の美意識は内に向いていました
それは、心のかたちが具現化していたように感じます
やきものにはこの国の哲学が残されています
私はそれらを体現させようとしています

「今」が具現化することを願っています

中ハシ克シゲ

1955 香川県に生まれる

主な展覧会

- 1992 彫刻の遠心力 (国立国際美術館／大阪)
- 1995 第6回国際現代造形コンクール [大阪トリエンナーレ 1995] (マイドーム大阪) 銀賞受賞
- 1997 思い出のあした (京都市美術館)
- The Blue Water Surface (ソウル国立現代美術館／韓国)
- 1998 個展「ZERO」 (大阪府立現代美術センター)
- 1999 第3回アジア太平洋現代美術トリエンナーレ (クイーンズランドギャラリー／オーストラリア)
- 2000 個展「あなたの時代」 (西宮市大谷記念美術館／兵庫)
- 2001 Super Flat (MOCA／アメリカ)
- 先立未来 (レイジ ペッチ プラトー美術館／イタリア)
- 2002 個展「On the Day」 (州立カウラギャラリー／オーストラリア)
- 2004 Collapsing Histories: time, space and memory (都立第五福竜丸展示館)
- 2006-07 個展 ZEROs—連鎖する記憶— (滋賀県立近代美術館、鳥取県立博物館)
- 2008 個展「The Depth of Memory」 (サンフランシスコカメラワーク／アメリカ)
- 2010 生存のエシックス (京都国立近代美術館)
- 2012 Arts & Air (青森県立美術館)
- 2015-16 個展「ZERO」 (Cooley Art Gallery／アメリカ)
- 2016 個展「もっと面白くなるかもしれない」 (SUNABA gallery／大阪)

パブリックコレクション

神戸市

兵庫県

大阪府

国立国際美術館

米子市美術館

鳥取県立博物館

東京都現代美術館

福岡市美術館

兵庫県立美術館

Douglas F. Cooley Memorial Art Gallery /USA

和歌山県立美術館

賞歴

- 昭和56年 神戸新進彫刻作家の道大賞展大賞
- 昭和62年 兵庫県彫刻コンペティション優秀賞
- 平成7年 大阪トリエンナーレ彫刻部門銀賞
- 平成27年度 京都府文化功労賞

谷 穹 Tani Q

- 1977 滋賀県生まれ。祖父は谷清右衛門。
- 2000 成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行。
2001 より北村寿三氏にロクロの指導を受ける。その後、家業の清右衛門陶房に入る。
- 2007 中世の信楽に多く見られる双胴式穴窯を築窯する。毎年改良した末、2012年現在の単室式穴窯築窯。
室町時代の信楽について考察中。

その他

- 2007 双胴式穴窯 築窯
- 2012 単室式穴窯 築窯
- 2014 「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」
- 2015 イッテコイ窯 築窯

コレクション

- 2014 《信楽 大壺》(2014年制作)ポートランド美術館(アメリカ)

主な個展

- 2005 「不在庵」ギャラリー陶夢(滋賀)
- 2006 「小路苑」小路苑(東京)
「LAND e SCAPe」成安造形大学ギャラリーアートサイト(滋賀)
- 2007 キュレーターズアイ「LAND Re SCAPe」ギャラリーマロニエ(京都)
- 2008 「Gundaroo」Old Saint Lukes Studio Gallery(オーストラリア)
- 2013 「LAND e SCAPeー現代のシツラエ」滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー(滋賀)
- 2015 「LAND e SCAPe」Gallery PARC(京都)
「ロロ一口ロ」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA(京都)
- 2016 「ロロ一口ロ」ギャラリーあしやシューレ(兵庫)
「wad+」wad+(大阪)
- 2017 十皿十皿 plus one「信楽 風景」陶 翫粋(京都)

企画展

- 2015 「これからの、未来の途中ー美術・工芸・デザインの新鋭11人展」京都工芸繊維大学美術工芸資料館